

# NPO 法人 こども環境活動支援教会「農から学ぶ自然対話力」育成セミナーの取り組みと活動継続に向けて —Centre for Alternative Technology を参考に—

上野 育子

キーワード：NPO、有機農業・ガーデニング、ボランティア、環境活動・技術、地域農業振興、地域間連携

## 1. 研究の背景と目的

農業や食についての意識が高まる中で、行政や民間営利企業とは異なり、市民が自由に活動できる民間非営利組織(NPO)の活動が期待されている。しかし、NPO法(1998年施行)が定める特定非営利活動には「農業」に関する項目がなく、また、活動をしている団体は少ない。本論文において取り上げる兵庫県においては、1,209あるNPO法人の内、農業に関わる活動を行っていると考えられるのは21法人のみとなっている(2007年8月現在)。このような現状の中、農業に関わる活動を行っているNPO法人の活動内容と課題を明らかにし、課題を解決させて活動を継続させることができれば、農業分野での活動を考えている他の団体の後押しにもつながり、また、地域の農業の活性化につながると考えられる。

## 2. 研究方法

本論文においては、兵庫県西宮市を拠点に置き、環境教育で全国的に有名なNPO法人こども環境活動支援教会(LEAF)が、市民を対象にして2006年より開催している「農から学ぶ自然対話力」育成セミナーを事例として取り上げ、セミナーの活動内容(年間を通じた農作業や文化体験など)と課題(収入確保、セミナー生の位置付け、有機農業への移行など)を明らかにし、セミナーが継続できるような提案を行った。そこで、筆者がガーデニングボランティアとして参加した、英国のウェールズにあり、環境問題や環境技術に関して広く一般に学んでもらうための施設であるCentre for Alternative Technology(CAT)の取り組みと有機ガーデニングの活動を模範とした。

## 3. 提案—地域での連携—

CATは設立してから約35年間、CAT内で必要なエネルギー、物質循環、上下水道など全てを自ら賄い、宿泊してそれらを専門的に学ぶ講座も開催している。セミナーが開催されている農地付近(車で約5分、徒歩で約30-40分)には、西宮市立甲山自然環境センター(宿泊施設、学習施設、キャンプ場を所有)があり、CATを参考に、農地とセンターが連携して取り組みを行うことが可能である。農地の野菜を宿泊施設の食堂で利用し、残飯を堆肥化して農地に戻すサイクルを構築し、農業体験・文化体験などを開催していく。(図-1)

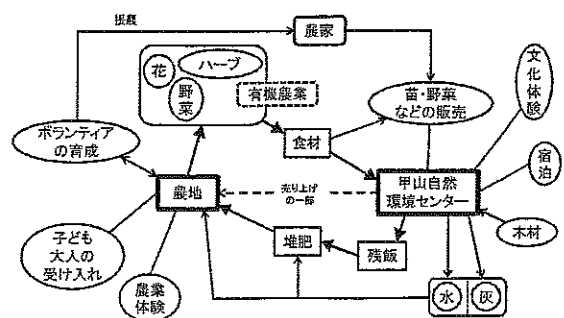


図-1 地域間連携提案図

## 4. 考察

環境問題に関する取り組みで西宮市内では大きな役割を担うLEAFが開催しているセミナーであるため、募集の仕方、講座の組み方、料金設定、地域との連携を適切に行えば、継続して活動していくことができるだけでなく、地域農業の振興にもつながると考えられる。また、LEAFがセミナーを成功させることで、農業分野での成功例として全国に広げるきっかけにもなるはずである。成功させるためには、物質循環や有機農法などのすぐに導入可能な取り組みから行い、順次、施設整備や地域農家との連携を固めていく必要がある。